

健康 進取 敬愛

北中だより

文責：三田 康弘

生徒の皆さん・保護者の皆さんへ

目標に向かって、2学期は大きな感動と勇気を！

—敵は己の妥協にあり—

リオデジャネイロオリンピックを観戦しながら、おそらく皆さんも日本選手の大活躍に歓喜されたのではないかと思います。水泳、柔道、テニス、男子体操、レスリング、バドミントン女子ダブルス、卓球団体、最後に陸上男子400mリレー決勝等々、これまでのオリンピック以上に興奮を味わい、感動や勇気を与えてもらったように私は思いました。でも、その陰には、個々の選手達が「努力は決して裏切らない」ことを信じて、高度な技術とテクニック、そして体力・持久力を身に付けるべく忍耐と努力の辛く苦しい日々（おそらく何度もあきらめようと思ったことでしょう）があったはずです。その苦しい過程を感じるからこそ、私たちは感動と勇気、希望を受け取ることができたのだと思います。そんな中で、私がとても印象的だったコーチがいました。それはチームシンクロナイズドスイミングの選手達に、みごと銅メダルを受賞させた井村雅代ヘッドコーチです。井村ヘッドコーチはとても厳しい指導で有名で、鬼と呼ばれていました。その彼女の座右の名は『敵は己の妥協にあり』でした。確かに私たちの心の中には「この次からやればいいや」とか、「後でまとめてやろう」、「きっと誰かがやってくれるだろう」というように、安易に自分自身に妥協点を見出してしまう傾向が誰にもあります。だからこそ、この言葉を胸に秘めて、ある競技や演技、活動を完成させる過程や、大会に臨むまでの練習の過程で、真の敵である己の妥協と闘うことが必要なのです。己の妥協と闘い勝つことは、同時に『感動の分岐点を超える』ことにもつながり、それなくして目標への到達はないでしょう。

太田市中体連新人大会まで後、9日

体育祭まで後、20日

1年生の林間学校まで後、32日

太田市駅伝大会まで後、37日

北輝祭（合唱コンクール）まで後、62日

このように2学期は、生徒の皆さんが、学校の仲間や先生、そして家族や地域の人達に感動と勇気を与える行事が盛りだくさんです。そして、当日までに限られた時間しかありません。

置かれた環境や条件、自由になる時間等は一人ひとりみんな違うと思います。大切なことは、自分に与えられた環境や条件、時間の中でいかに妥協せずに目標に向かえるかです。ライバルは他人ではなく自分自身です。「昨日よりも少しでも頑張った今日。少しでも成長した自分。」それを積み上げることが、ゴール（目標）に着実に近づくことだと思います。頑張ってほしいです。

資源回収では大変お世話になりました

8月7日（日）に行われた資源回収では、それぞれのご家庭からたくさんの新聞紙や段ボール、アルミ缶等をご提供いただきました。ありがとうございました。また、生徒の皆さんや地区役員の保護者の皆様には、資源物の回収や整理等に当たっていただきました。お陰様で多くの資源を回収することができました。この資源回収で得られた資金は、部活動や教育環境の整備費として、有効に使わせていただきます。大変お世話になりました。

『石巻ボランティア隊レポート』より -その1-

太田市教育委員会が夏休みに募集しました「第4回 石巻ボランティア隊（8/2～8/3）」に、今年も本校からも沢山の生徒達が応募してくれました。その結果、本校では抽選で6名の生徒が選ばれました。また、引率者として久保田博先生も同行してくださいました。

その時の様子を「石巻ボランティア隊レポート」として、報告させていただきます。

「ボランティアに行ったら思ったこと」 太田市立北中学校1年 小松 直生

僕は、このボランティアで震災の悲しさを感じました。大川小学校では、川のはんらんと津波が合わさって、敷地の中で渦を巻いたという話を聞いて、逃げ道はもう無いのに、津波が来てしまうなんて、こわかっただろうな、辛かっただろうなと思いました。まだ、子どもだったのにとてもかわいそうだなと思いました。旧防災庁舎では、テレビ等で見るとよりも、細かいところが見えたり、小さな鉄骨が折れて、垂れ下がっているのを見て、津波の恐ろしさを感じました。そして、そこに勤めていた方々が町の人に避難勧告を出して、逃げ遅れてしまったということを知って、町の人を守りたいという気持ちが伝わってくるとともに、とても大変だったんだろうなと思いました。

津波が来た後、仙台空港には数百人の遺体が流れ着いたそうです。その話を聞いたときは、鳥肌が立ちました。震災の夜は、3月ということもあり、雪も降って寒くなりました。そういうこともあって、逃げられたお年寄りの方の中には、寒くて亡くなってしまった方もいるそうです。

東北の漁師の方々は、地震が来るとすぐに津波が来ると思って、沖に出て船を守るそうです。そして、津波警報が解除されるまで港には帰らないそうです。船には食料も飲み物もあまりないので、沖にいるときは大変なんそうです。僕は、津波は家も全て流していってしまうので、復興するのに時間が必要なんだなと思いました。東北は今回行って見て、とても良いところだったので、早く復興してほしいです。